

令和5年3月11日

保護者の皆様

地域の皆様

さくらの学び舎 世田谷区立笛原小学校  
校長 後藤真司

## 令和4年度 学校改善策についての結果報告

令和3年度の学校評価を受け、令和4年度は次の視点で学校改善を進めてきました。3つの重点目標及びその他の取組について、その結果についてご報告申し上げます。

### 1 重点目標Ⅰ：「主体的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成」に向けて

- 「キャリア・未来デザイン教育」の柱の一つである「せたがや探究的な学び」の実現を目指して取組を進めました。その中では、主体的・対話的で深い学びにつなげる支援等、子ども一人一人のキャリア形成を図る支援が学校教育での使命と考え、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度、そして、子どもたちが豊かな人間形成を図れるよう、子どもたちの育成に務めてきました。
- ◆ 主体的な学びと思考力・判断力・表現力の育成に向け、下記の内容について取り組みました。
  - 「めあて学習」を充実させ、見通しをもって学習活動に取り組めるようにするとともに、自分の学習を振り返る活動を計画的に位置付け、思考力・判断力・表現力の育成に努めました。
  - 算数科で、3年生～6年生では、算数少人数指導担当教員が加わり、学級数+1のグループ編成で、全単元・全時間で習熟度別の授業を展開しました。また、1年生・2年生では講師が学級授業に加わり学級担任とのTT体制で授業を展開しました。子どものニーズに応え、一人一人の学力の向上を図るとともに、個別学習や協働学習を通して、自ら考え、判断し、友達と話し合い、考える活動を通して、自ら問題解決に取り組む学習を進めました。さらに3年生希望者を対象に放課後学習教室を年間30回実施し、個別指導の充実を図りました。
  - 学校図書館司書（民間委託業者）と連携・協働し、学校図書館を「読書」「学習」「情報」の3つのセンター機能面から整備し、一層の活用を図ってきました。各学期に読書週間を設け、本に親しみ、読書活動に取り組み、ことばの力を高める支援を進めてきました。
  - 子どもたちが学習への興味・関心を高め、学習内容の理解を深められるよう、学習用タブレット端末及びICTを効果的に活用し、「ことばの力を高める言語活動」を充実させ、子どもたちの個別学習・協働学習・一斉学習を支援しました。
  - 子ども一人1台の学習用タブレット端末を学校や家庭で効果的に活用し、双方向型の学習形態や個に応じた学習形態を視野に入れた授業づくりを進めました。
  - 家庭と連携して計画的に家庭学習を進め、一人一人に応じた支援を、一層進めました。
  - 校内研究では2年間の研究実践を土台に、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現と教員の授業力向上を目指し、生活科・理科を中心に取り組みました。

### 2 重点目標Ⅱ：「多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成」に向けて

- これからの中長期的な国際化や変化の著しい社会を生き抜くためには、多様性を認め合い、相手を尊重し、望ましい人間関係を構築することが重要です。コミュニケーション能力や社会性を高め、

共生する社会の一員としての役割を果たす力を身に付けることを願っています。学校では、学級・学年を中心に、笹の子班活動・クラブ活動・委員会活動などで集団を形成する中で、将来に向けた数々の学びやキャリア形成を図ってきました。よりよい集団をつくり、その中で自己実現を図り、自己肯定感を高め、輝く子どもたちを育てることに取り組みました。

◆多様性を認め合い、よりよい集団づくりに向け、下記の内容について取り組みました。

- 毎月1週間の「あいさつ週間」を設定し、子どもたち・教職員はもちろん、保護者・地域の皆様にも協力いただき、校内だけでなく地域においても、気持ちの通い合うあいさつ活動を進めました。担当学年を割り振り、標語づくりやあいさつキッズとしての活動に取り組み、子どもたちのあいさつに対する意識が高まるとともに、日常でも活発なあいさつが行われています。
- 教職員も、すすんで明るく元気に爽やかなあいさつを率先して行いました。
- 感染対策のためマスク着用が続く中、大きな声ではなく、心を通わせるあいさつ、気持ちのよいあいさつをすることを全校で心がけ、日常のあいさつを大切にしました。
- 4年目となる「『ふわふわ言葉』を大切にしよう」の取組を継続し、美しいことば・相手を思いやることばを通して、「思いやりのある子ども」の育成に力を入れてきました。
- 各教科等の授業はもちろん、様々な行事や教育活動等で「人とかかわり合う活動」を計画的に取り入れました。保護者・地域・関係機関の方々の協力がとてもありがたかったです。
- 集団活動においても、自分のめあてをもって活動に取り組み、その後の振り返りを次につなげ、よりよいものにしようとする向上心を育む指導（キャリア・パスポート等）に取り組みました。

### 3 重点目標Ⅲ：「自分の健康に关心をもち、よりよい生活をつくる子どもの育成」に向けて

●本校では、「世田谷3快プログラム～快眠・快食・快運動～」の取組を継続し、体力向上・健康推進における特色ある教育活動をより一層充実させ、すすんで体を動かす運動や遊びとともに、食事や睡眠など日常生活との関連を図りながら取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、様々な生活における制約がある中、感染対策を講じながら工夫を重ね、健康で楽しい生活を送ることができることを目指してきました。

◆自分の健康に关心をもって学校生活を送るため、下記の内容について取り組みました。

- 体を動かし、運動する機会を確保するため、休み時間や元気タイムの活動内容・場所を工夫し、すすんで体を動かす機会と場をつくりました。
- 年間を通して「元気タイム（月1回）」を設定し、学年や学級の友達とともに運動や運動遊びを楽しみました。また、全学年で長縄跳びに年間を通して取り組み、みんなで楽しむ機会を体験し、遊びの日常化につなげました。
- 長縄跳び週間・短縄跳び週間・持久走週間を設け、めあてをもって運動に親しみ、挑戦する楽しさや達成する楽しさなどを体感し、運動への意欲と日常化につなげました。
- 学級遊びや笹の子遊び（縦割り班遊び）などを取り入れ、自分たちで遊ぶ・運動する機会をつくり、すすんで体を動かし、運動に親しむ取組を進めました。
- 体育学習では、感染対策を講じ、運動内容と運動量の確保を考慮して取り組みました。
- 体力・運動能力等調査を実施し、運動面や体力面での課題を確認し、自ら高めたい内容について確認し、めあてをもち運動に取り組むことの意識付けを図りました。
- これからも、自分の健康状況を把握するとともに、よりよい生活実践につなげができるよう支援をしていきます。

#### 4 「地域とともに子どもを育む」ため、下記の内容について取り組みました。

- 子どもたちの安全を確保するため、毎月1回、下校指導日を設定し、通学路等での安全指導を行うとともに、地域の様子を見る機会を確保・実施しました。
- 「キャリア・未来デザイン教育」を推進し、「さくらの学び舎」の桜丘中学校・桜丘小学校・桜丘幼稚園・近隣保育園との連携を図り、子どもたちの育成を図りました。
- 世田谷版「スタートカリキュラム」を活用して、新1年生の円滑な学校生活への定着を図りました。また、区立桜丘幼稚園との交流活動を通して、「アプローチカリキュラム」を具体化し、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図りました。
- コロナ禍の中、保護者・地域と連携した行事として「花火大会」「ふれあい飯ごう炊さん会」「商店街のペナント製作」「どんど焼き」「ふれあいドッジボール大会」等を実施することができました。そして、体験活動の充実と連携を図ることができました。
- 学校支援コーディネーターと連携し、地域の教育力を活用した学習活動を取り入れ、1年生の「歩道花壇の花植え」を1・2学期に実施しました。また、2年生が「地域の方々との交流」を3年ぶりに実施し、昔遊びを通してふれあうことができました。1年生も2年生も交流活動ができたことをとても喜んでいました。
- 学校運営委員会が核となり保護者・地域の協力を得て実施する体験学習や体験活動を、昨年度までの取組を土台に計画し、今年度で5回目の「キャリア教室」と「漢字検定」を実施することができました。それぞれの体験が子どもたちの成長につながりました。

#### 5 「共に子どもを育てる」ことを目指した学校運営と保護者・地域との連携の推進について

- 意図的・計画的な教育活動が展開できるよう全教職員で創意工夫を重ね、「信頼と誇りのもてる学校づくり」に取り組んできました。また、「共に子どもを育てる」視点から保護者・地域の皆様と情報共有を図り、学校運営や教育活動へのご理解とご支援をいただき、「地域とともに子どもを育てる教育」を進めてきました。今後は、従前の連携活動ができるることを願っています。

### 6 まとめ

- ◆今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じて教育活動を進めてきました。様々な制約もある中、保護者・地域のご理解とご協力をいただき、「今、できること」「今、しなければならないこと」を判断して教育活動を進めました。
- ◆5月の運動会では、実施時間や競技・演技内容、保護者参観方法を工夫し、実施しました。また、11月の展覧会では感染対策を講じる中、子どもたちや保護者の鑑賞時間と「かんしようガイド」の活動時間を確保し、実施できました。さらに、日常の学習活動でも、感染対策を講じ、創意工夫を重ねて教育活動を進めてきました。
- ◆特色ある教育活動の一つである「笹の子班活動」では、異年齢集団活動のよさと成果が発揮され、子どもたちに所属感や連帯感、思いやりや協力の心を育むことができました。特に、12月に開催した「笹の子まつり」では、感染対策を講じる中、6年生がリーダーシップを発揮し、みんなで協力して楽しく達成感と充実感を味わうことができ、思い出に残る取組になりました。
- ◆昨年度の学校関係者評価委員会報告書で課題として指摘のありました「本校のよさが保護者や地域の方々に正確に伝わっていないこと」については、学校だよりや学年だよりとともに、

今年度は特に「学校ホームページ」による日常の教育活動に関する情報発信に、より一層力を入れて取り組んできました。毎日のアクセス数も多く、掲載したコラムや資料をきめ細かに閲覧してくださっていることに手応えを感じています。いつでも、どこでも確認していただける情報発信の手段として、今後も充実させていきたいと思います。

- ◆学校情報配信システム「すぐーる」を活用して、様々な情報をリアルタイムで発信・提供してきました。今後も活用を通して、情報提供を充実させていきたいと思います。
- ◆これからも、教育活動に関する事柄についてお知らせするとともに、子どもたちの思いや願いを受け止め学習指導や生活指導に活かす積極的な取組、また、「共に子どもを育てる」視点での保護者・地域との連携など、創意工夫を重ね、「信頼と誇りのもてる学校づくり」に取り組んでいきます。

◎何より、子どもたちにとって「楽しい学校」「安心して過ごせる学校」であることを最優先に教育活動を進めました。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をいただき、一日一日を大切に、子どもたちが元気に過ごすことができた1年間でした。感謝申し上げます。  
ありがとうございました。